

特定非営利活動法人学生支援ハウスようこそ 2023年度 事業報告

はじめに

2023年度も当法人が運営するシェアハウスに、児童養護施設等を措置解除となった後に大学・専門学校等に進学する若者を受け入れ、住居・食事の提供を中心とした生活支援、健康や心理面等に関する相談援助を実施した。今年度は、ケアリーパー（社会的養護経験者）の入居だけでなく、家庭・地域で困難な状況に置かれた若者の入居相談や、受け入れを行った。2023年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し規制が緩和されたが、ハウスでは引き続き感染予防対策を実施した。

今年度は、入居学生全員が最終学年に在籍しており、それぞれに就職活動、資格試験、卒業論文・卒業制作、卒業試験、国家試験に向けた勉強に取り組んだ。ようこそシェアハウスでは、入居学生が安心安全にこの一年を過ごし、精いっぱい自分の力を発揮できるよう、快適な生活環境づくりに努めた。

1. 学生生活支援のためのシェアハウス運営事業（数字は2023年12月末日現在）

① 学生の入居状況

- ・2021年度より継続1名
- ・2022年度より継続1名
- ・2023年3月に1名入居、5月に1名入居

② スタッフの勤務状況

- ・スタッフがハウスに滞在し食事提供・環境整備・健康管理・相談援助等を行った。
- ・ハウスアテンダント：2名
  - \*学生への面談・相談等を通して学生支援の中心を担うスタッフ
- ・スタッフ：10名
- ・ハウスの宿泊・日勤業務に携わる理事・事務局員：4名

③ 食事の提供

- ・スタッフが、学生に手作りの温かい食事（朝夕食）を提供し、学生の食生活と健康を支えた。
- ・調理ボランティアとして2名の方から協力を得た。

④ コロナ対策に伴うハウス勤務

- ・日勤勤務を継続し、宿泊と日勤の勤務を、状況に応じて柔軟に選択できる体制を組んだ。

⑤ ハウスにおけるコロナ対策

- ・コロナ対策のため衛生用品・抗原検査キットを購入し感染予防対策を徹底した。
- ・陽性者・濃厚接触者が出た場合に備え、ハウス居室の1室を静養室として確保した。陽性者発生時のゾーニングを設定し生活ルールを確認した。
- ・感染状況に応じて常に注意喚起を行い、学生の安全確保に努めた。

⑥ ハウスの環境整備

- ・必要に応じてハウス建物の修繕や電気機器の修理、住環境の整備を行った。

⑦ 個別面談・ケースカンファレンスの実施

- ・学生一人ひとりに対して個別面談を実施し、生活・学業・進路・心身の健康面の相談に応じた。

・学生の元居住施設の職員と連携しケースカンファレンスを実施した。

## ⑧ 病院への同行支援

・学生の心身の健康に関する相談に応じ、病院への通院に同行した。緊急時においても迅速に対応し、病院への付き添いを行った。

## ⑨ スタッフ会議、ハウスアテンダント（HA）会議の開催

・スタッフによる、ハウスの学生支援に関する会議を毎月開催した。スタッフ間で情報を共有し支援の実際を協議した。感染対策のため Zoom を用いて開催している。また、HA による会議も適宜開催し、学生に対する個別支援のあり方を検討した。

## ⑩ ハウス会議の開催

・学生と HA を中心にハウスでの共同生活を円滑かつ豊かにするための「ハウス会議」を継続的に実施した。コロナ感染症への対策を学生同士で話し合い、新しいルールに基づく生活を実践した。

## ⑪ ハウス行事の開催

・感染対策を徹底し、規模を縮小したかたちで、歓迎会、誕生会等のハウス行事を開催した。

## ⑫ 防災対策

・ハウス会議の際に、学生とともにハウスの近隣にある災害時の避難場所を確認し、災害時の行動について情報を共有した。

## ⑬ 寄付・寄贈品

・多数の団体、個人から寄付があった。季節の果物、菓子、日用品、洋服、生理用品、図書券、ギフト券等を寄贈していただいた。また、新鮮な有機野菜や肉、麺類を定期的に寄贈していただいている。

## ⑭ 退去者支援（アフターケア）

・退去者の誕生日にメッセージを送り、つながりを継続することに努めた。また、必要に応じて連絡を取るなど、退去者への見守り・助言の支援を続けた。また、何名かの退去者から結婚の報告が届いた。

## ⑮ 家賃免除

・ケアリーバー（社会的養護経験者）ではなく、家庭・地域での困難な状況から入居した学生について、公的な援助が受けられず、経済的困窮が深刻であったため、法人として入居後 4 か月分の家賃を免除する支援を行った。

## 2. 調査研究・広報啓発に関する事業

### ① 広報啓発に関する事業

・ハンドブックの制作

2020 年開催の HA 座談会の記録を中心に、ようこそその 7 年間を振り返るハンドブック『暮らしの現場から——学生支援ハウスようこそ 7 年の歩み』を制作し、2023 年 2 月に発行した。

・インターネット記事の掲載

樋田敦子氏による取材を受け、弁護士.com によるこそを紹介する記事が掲載された。

・パルシステム給付型奨学金伴走支援団体連絡会

パルシステムの給付型奨学金を受給する団体が集まり、情報交換・意見交換を行った。

### ② メールマガジンの発行、ホームページの更新

・会員あてのメールマガジンを発行し、ようこそその活動およびハウス運営に関する情報発信を行った。ホームページを随時更新し活動の広報に努めた。

### ③ 見学・相談の対応

・HP の入居問い合わせフォームを通じて、支援を必要とする若者本人、自治体・児童相談所等の担当者からハウスの利用概要や部屋の空き状況に関する問い合わせが複数寄せられた。

### 3. 法人に関する事項

#### ① 各種会議の開催

・理事会、事務局会議等を定期的に開催し、法人の安定的な運営に努めた。今後の法人のあり方について、複数回にわたって協議を行った。

#### ② 助成金の活用

以下の団体から助成を受けることができ、助成金を活用した事業を実施した。

・ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) 新型コロナウイルス対策子ども支援事業

助成額：100 万円

・パルシステム給付型奨学金

パルシステムの給付型奨学金事業を利用して、ハウスに入居する 2 名の学生に対し伴走支援を実施している。学生には毎月 40,000 円、伴走支援団体には毎月 15,000 円が給付される。社会的養護経験者ではない、家庭からの入居者には公的な支援が脆弱であるため、本給付型奨学金を有効に活用している。

#### ③ 法人の業務終了・解散の決定

従前より検討を進めていた、当法人の今後の方向性やあり方について結論を出した。2024 年 3 月末でのハウス業務の終了、その後の解散・清算を決議した。今後、解散に向けた、総会等を含む諸手続きの詳細やスケジュール化については、外部サポートや第三者のアドバイスを受けながら進めていく。